

SR-S224PS1 V12.00 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	IPv6 DHCPサーバ機能	IPv6 DHCPサーバ機能をサポートする。
2	フィルタ/QoSのIPv6対応	1. フィルタ/QoSのACLについてIPv6対応を行う 2. IPv6フィルタ機能を追加する。
3	DHCPスヌープ機能	DHCPサーバからアドレスを割り当てられた端末のみに通信を許可する機能を追加する。
4	ARP認証機能追加	1. 認証失敗端末の送信を妨害するためのARPパケットを定期的に送信する機能を追加する。 2. 認証成功時のシステムログ表示を追加する。 3. 端末のIPアドレス変更時の再認証機能を追加する。 4. IPアドレスを指定して認証を許可する機能を追加する。
5	MACアドレス認証機能追加	MACアドレス認証せずに通信を許可する端末の設定を可能とする。
6	SNMP機能追加	1. SNMPv3の認証および暗号機能を追加する。 2. SNMPv3のアクセス制御機能を追加する。 3. IPv6のMIBを追加する。
7	LLDP機能追加	LLDP機能をサポートする。
8	IGMPスヌープ機能追加	1. ローカルマルチキャストアドレスをMembership report無しでも配布する。 2. Unknownマルチキャストアドレスを配布する設定を追加する。
9	ether/vlanコマンドのdiscription	ether / vlanにコメントが書けるコマンドを追加する。
10	長距離光モジュールサポート	1. 1000BASE-ZX/1000BASE-BXを新規にサポートする。 2. show ether media-infoコマンドでメーカー型名(PN)を表示する。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V02.01～V11.00	プライベートMIB:nosSystemErrorTextのMIB値を取得した場合、表示すべきハードエラー要因が適切に表示されない場合がある。
2	V02.01～V11.00	装置内のFlashメモリへのアクセス中にSNMPマネージャーからプライベートMIB取得を行うと、Flashメモリへのアクセス終了までMIB取得処理が待たされることがある。装置内のFlashメモリへのアクセスは、構成定義情報の退避、ファームウェア更新や装置内エラーログ情報の表示操作などを契機に実行される。
3	V02.01～V11.00	LAGグループ内のVLAN定義不一致による無効ポートに対してVLAN定義変更にて矛盾解消してもポートが利用可能にならない場合がある。
4	V02.01～V11.00	構成定義情報の複写操作を実行すると、CF内にサイズゼロの不要なファイルが作成されることがある。
5	V02.01～V11.00	Master Boot Record(MBR)無しの外部ストレージをフォーマットできないことがある。
6	V11.00	リンクアグリゲーションのメンバであるetherポートに対してリンクダウンリレーを設定した時に、以下の事象が発生することがある。 - LACPやLAバックアップ併用時にetherポートに設定したリンクダウンリレー情報が設定されない - show etherで表示されるリンクダウンリレー情報が、設定した情報と異なる
7	V11.00	telnet接続でログインし、複数行のキー入力データを処理するコマンドを実行しているときにコピー&ペーストで複数行のキー入力データを入力すると、データの順序が入れ替わることがある。
8	V02.01～V11.00	シスログサーバを設定し、シスログの重複メッセージを抑制する設定(syslog dupcut yes)を行った場合、メモリの解放漏れが発生することがある。
9	V02.01～V11.00	copyコマンドによりCF(空き容量なし)にelogやsyslogを退避するとエラーとならずに、0バイトファイルが生成される。
10	V02.01～V11.00	タグVLANを定義したポートで、Web認証が有効になりタグ付きフレームが通信不可となる。
11	V02.01～V11.00	ether use off設定後、IEEE802.1X認証状態が無効にならず継続される場合がある。
12	V02.01～V11.00	特定の10Gbps XFPモジュールでリードができなかったり、媒体エラーが発生することがある。
13	V02.01～V11.00	フィルタ/QoS定義にて指定されたACLにてTCPポート番号指定が重複している場合に、設定値が有効にならない。
14	V02.01～V11.00	認証VLANにてデフォルトVLANが追加されたときに、デフォルトVLANに定義されたフィルタ/QoS設定が適用されない場合がある。
15	V02.01～V11.00	1:scheduleコマンドで装置再起動時にresetコマンドを実行するようスケジュール設定すると、装置が再起動を繰り返し正常に起動しなくなる。本件は、誤った設定を投入した時に発生する。
16	V02.01～V11.00	Web認証でユーザIDとして8ビットコード(漢字等)を入力すると、システムダウンすることがある。
17	V11.00	LACPのリンクアップリレー機能が動作しない場合がある。
18	V02.01～V11.00	TCPパケットがTCPオプション部の途中でフラグメントされていた場合、正常なフラグメントに関わらずIPフィルタでoverlap fragmentと評価され破棄される。
19	V02.01～V11.00	IEEE802.1X認証異常にてポートが使用できなくなる場合がある。
20	V11.00	DHCP MACアドレスチェックにおけるIPアドレスの更新の際、lan ip dhcp macauth type設定で指定した認証プロトコルが有効ならず、必ずCHAPで実行される。
21	V03.00～V11.00	MIB取得中に動的定義変更したとき、commitコマンドが復帰しないことがある。